

出題分析		
試験時間 60 分	配点 50 点	大問数 5 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>大問数は5題、小問数は40問で昨年とほぼ同じであった。例年〔I〕は遺跡や写真を使った問題、〔II〕は古代ギリシア・ローマ史、〔V〕は西洋美術史という出題であったが、本年はいずれも踏襲されず、〔I〕は世界地図を使った古代史の問題、〔II〕は時代をまたぐ雑題、〔V〕も東洋を含む版面を使った出題となった。〔I〕〔II〕を中心に細かい知識を問う問題が多く、昨年と同程度の難易度と言える。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	古代史	設問1・2は容易。設問3、現在世界で最も生産量が多い穀物はトウモロコシで、最初に栽培化が行われたのはメキシコ高原とされる。設問4はアとウの2択までは絞りたい。アの仰韶遺跡を発掘したのはスウェーデン人考古学者のアンダーソンなので誤り。よってウが正解。	やや難
II	雑題集合	設問1は難問。ヴァンダル王国の建国が429年と知らないと正解を出しにくい。設問8、エのヨーゼフ2世の宗教寛容令はイスラーム教徒を対象にしていない。設問9、重農主義は自由貿易を主張しているのでこのイが正解。設問11は消去法で解答可能。プラザ合意と男女雇用機会均等法は1985年、天安門事件は1989年。	やや難
III	漢字を元に作られた文字	設問1は消去法で解答したい。甲骨文字の解読者として王国維の方が有名であるため、そちらを想起して混乱した受験生もいたと思われる。設問3は大秦景教流行中国碑が781年に立てられたことを知らないと難しい。設問4は明らかに漢字由来に見える画像を選ぶ。設問6は素直に考えれば「漢字」が正解になると思われるが、問題文中に「漢字」が多く出てくるため解答しづらい。「表語文字」が正解として想定されている可能性もある。	標準

設問別講評			
IV	史料を用いた問題	史料を熟読するよりも設問4～6から先に見た方が解きやすい。設問4の選択肢を見るとエがオスロ合意のことを指しており、他の選択肢は該当する条約を想起できないと思われる。また、設問5・6も正解以外の選択肢は事実が誤っており、特に設問6から史料の宣言がなされた年が1993年とわかるのも、史料を推測する材料になる。これらから史料がオスロ合意であると推測できれば他の設問はさほど難しくない。早稲田大の史料問題ではしばしばこのような解き方が推奨されるので慣れておきたい。	標準
V	世界史上の版画	設問1は9世紀に生きていたのが選択肢の中では白居易しかいないのでこれが正解だが、彼の没年も846年なので868年には生存していない。設問2は漢字6文字指定に注意。設問4は実質的に画家と様式の組み合わせが正しいものを選ぶ問題。ドガは印象派、ゴッホはポスト印象派、マティスは野獣派(フォーヴィスム)なのでいずれも誤り。	標準

合格のための学習法

文化構想学部の問題は出題傾向が特徴的なので、独特の対策が必要になる。古代ギリシア・ローマ史、および文化史は細かい用語まで問われるので、十分な対策が必要である。とりわけ西洋美術史の問題はほぼ毎年最後の大きな問題で出題されているので、資料集なども活用しながら覚えておこう。過去問演習の際は、文化構想学部の問題だけでなく、出題形式が似ている文学部の過去問も解いておくとよい。また、近年は本格的な史料読解問題が課される年と、細かな用語が問われる年が法則性無く入れ替わっており、予測が難しい。少なくとも共通テストの演習も用いて史料読解には慣れておきたい。